

「同朋オープン・フォーラム2018」にぜひご参加ください

今年も、生徒・保護者・市民・教職員の四者で「教育・学校づくり」を考え、話し合う「同朋オープン・フォーラム」を実施します。昨年度末から何度も打ち合わせを行い、準備を進めております。

今年は「頼りになる仲間 同朋ファミリー〜60周年だよ 同朋、全員集合〜」をテーマに開催します。当日は石井拓児先生(名古屋大学大学院准教授)をお招きし、「これからの同朋の教育に期待するもの〜過去から未来へ〜」と題したミニ講演をいただきます。

家庭で、学校で、何ができるのか。本校の授業実践などもご覧いただきながら、一緒に考える機会としましょう。

実行委員会事務局 宮城 道良

日時 2018年12月8日(土) 14:00〜17:00

開催場所 同朋高等学校 多目的ホールほか

スケジュール

1 全体会
○地域懇談会の回答
○ミニ講演…「これからの同朋の教育に期待するもの〜過去から未来へ〜」
講師:名古屋大学大学院准教授 石井 拓児氏

2 生徒体験報告と意見交流会

2018年度 秋の「助成金拡充請願」活動について

今年度も、『オータムフェスティバル(県民文化大祭典)』を県下38会場で開催しております。それぞれの会場で県議員さんにご登壇いただき、愛知県や市町村の「助成金拡充請願」についてもご理解いただいております。

本校では、責任・担当会場となっている11会場を中心に、生徒、保護者、卒業生とその保護者、本校教職員、また他私学関係者や市民とともに、準備・運営を進めております。

同朋学園助成金推進協議会としても、今後開催される11月18日(日)の同朋会場(名古屋中村会場/メインゲスト:タレント・講師 水谷ミミさん)をひとつの大きな結節点としながら、さらに大勢の方のご理解を得たいと考えております。

今後も、12月の愛知県議会でも審議される「請願署名」採択に向けての活動、ひいては2018年度以降の私学教育を左右する大切なフェスティバルが続いていきます。「私立高校無償化」「教育の公平」の実現のため、「オータムフェスティバル」へのご参加、助成金拡充署名へのさらなるご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、オータムフェスティバル運営協力券の普及、これまでの会場へのご参加・運営・準備など、多くの力添えをいただいておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

同朋学園 助成金推進協議会 小堀 能任



Schedule [行事予定]

11月	1日 木	クラブ総会
	7日 水	生徒会立会演説
	11日 日	珠算・電卓実務検定
	16日 金	音楽科2・3年生公開実技試験
	17日 土	第2回学校説明会
	25日 日	ビジネス文書検定
	27日 火	見真の日、報恩講
12月	28日 水	学園研鑽日【休校日】
	1日 土	第3回学校説明会
	3日 月	期末考査【〜7日(金)】
	8日 土	PTA常任委員会、オープンフォーラム

12月	15日 土	修学旅行1団出発【〜18日(火)】 201、202、208、209
	16日 日	修学旅行2団出発【〜19日(水)】 203、204、210、211
	17日 月	修学旅行3団出発【〜20日(木)】 205、206、207
	18日 火	午前授業【〜20日(木)】
	18日 火	2音代休、1年学年自主活動日
	19日 水	3年学年自主活動日、1団代休
	20日 木	1・2団代休
1月	21日 金	終業式
	8日 火	始業式
	10日 木	音楽科第50回卒業演奏会
	18日 金	見真の日

1月	19日 土	大学入試センター試験
	20日 日	情報処理検定
	20日 日	3年生午前授業
	21日 月	3年生卒業試験【〜25日(金)】
	22日 火	英語検定
	25日 金	PTA常任委員会、1・2年保護者進路ガイダンス、学級懇談会
	26日 土	簿記実務検定
2月	27日 日	推薦入試
	3日 日	商業経済検定
	5日 火	3限授業、入試準備
	6日 水	一般入試
	15日 金	卒業式リハーサル、数学検定
	16日 土	卒業式

同朋和敬

10

学校通信

Doho High School Community Press
Vol.212 30 OCT 2018

同朋高等学校 学校通信編集委員会 宇佐美・平岩・平野・杉浦

名古屋市中村区稲葉地町7の1 TEL 052-411-1159

同朋和敬

文化祭と夏休みの活動特集

10
Vol.212
学校通信

Doho High School Community Press



秋を表す英語には、元々違う意味を持った2つの語があります。1つは、収穫期を意味する「Autumn(オータム)」(主に英国で使用)。もう1つは落ち葉(=「fall of the leaf」)が省略された「fall(フォール)」(主に米国で使用)。葉を落として木々が冬を越すことは見てわかりますが、枯れてしまった草はどうなるのでしょうか。『植物はすごい』(田中 修著)によると、ワラビ・ドクダミ・スギナなどの草は枯れずに土の中を横へ横へと茎をのばし、根のように元気に生きているとのこと。春に芽が出せるように見えない所で準備をしているんですね。人間にもそういう時期があってもいいのではないかと思います。

同朋高等学校長 梅田 功



2018年度 文化祭 HISTORY ～今までの歩み、明日への一步～

第61回の同朋高校文化祭が行われました。これまで、多くの先輩たちが取り組み歴史を作ってきた文化祭を、今年も全校で取り組むことができました。

これまでの文化祭の歴史で大切に、築いてきたものはたくさんありますが、その中でも特に重要なことはクラスで取り組むということです。文化祭を通してそれまでのクラスメイトの見えなかった部分が見えてきます。取り組む中で「自分と違う」というだけの認識から変わり、自分との違いを良い点として活かしあえます。そして文化祭を終えた時にはクラスメイトがよりリアルに見えます。クラスの仲間とつながることが同朋高校文化祭の伝統なのです。

また、文化祭では見えないところで多くの生徒の頑張る姿がありました。裏方として取り組んだことや、残念ながら台風のため3日目月休校となり準備したことが表に出ないままとなった企画もありました。しかし、そんな表に出ない努力や準備の一つ一つがあって文化祭は作り上げられています。

今年の文化祭のテーマは、「History～今までの歩み、明日への一步～」。今の私たちのことだけではなく、これまでの私たちのことを知り、そして未来の私たちへとつなぐ文化祭を目指して取り組み、またひとつ歴史を作り上げました。

文化祭実行委員会 岡田 曉彦

2018年度文化祭 受賞クラス一覧

● アカデミー賞 ●

3年生	演劇部門	303	あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。
	パフォーマンス部門	309	光と音
2年生	ミュージアム部門	205	駄菓子屋
1年生	創造部門	102	ジュラシックパーク

● ベストクラス賞 ●

2年生	ミュージアム部門	201	ジオラマ
1年生	創造部門	104	coffee cup ～104と夢の国～

3年アカデミー賞 演劇部門

ぶつかり合い、団結していったクラス演劇「あの花」

303 佐々木 翔伍 (名古屋市立汐路中学校出身)

高校生活最後の文化祭。みんなでうれし涙を流して終わることができる…そんな結末を303の誰が想像できただろうか。多分、当日の1週間前まで、まさかアカデミー賞をとれるなんて誰も考えていなかったと思う。

僕たちは「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」という物語の演劇をした。この演劇をする決まった後、みんなでこのドラマを見ていた時、ほぼ全員が号泣。圧倒的な物語の力がある一方で、「難しそう」という思いもよぎっていた。

僕は「ゆきあつ」というメインキャラクターを演じることになり、もう一度ゆきあつが出てくるシーンを見直した。やはり感想は同じ。難しい。難しい。泣くシーン、叫ぶシーン、うざったい雰囲気を出すシーンや女装するシーン、本音とは違う言葉を口にするシーンもあり、こんな複雑な演技を僕ができるのかとずっと思っていた。台本が完成して配られた時も、セリフの多さにびっくりした。もちろん演技などをしたことがなかった僕は、まずセリフを覚えることが大変だった。でも僕よりもセリフが多い子もいたのでその子に比べればと思い、頑張って覚えた。

練習をしている時、僕たちは何度もぶつかり合った。練習をさぼる子もいれば、注意の仕方がキツイ子もいたりして、前日まで揉めていた。しかし、僕たちのそんな状況を変えてくれたのが、7組だった。307の演劇「レ・ミゼラブル」は初日で僕のクラスの前日だったため、見ることができた。とにかくすごかった。演技が堂々としていて、演出も迫力があつた。素直に感動した。だからこそ「このクラスには絶対に負けたくない」とみんなが同じ事を感じたらしく、団結することができていった。

結果は、同朋アカデミー賞。発表の瞬間、涙が止まらなかった。クラスの子も先生も泣いて喜び、高校生活最後の文化祭にふさわしいものとなった。

3年アカデミー賞 パフォーマンス部門

不安と責任

309 佐藤 衣槻 (名古屋市立立原中学校出身)

高校生活で3年連続のアカデミー賞受賞だった。1年生や2年生の時は、自分がクラスのために何かできたかと言われると、特にない。放課後はほとんど部活に行き、本番も部活動にかかりきりで、アカデミー賞を受賞してもどこか他人事のように感じていた。

しかし今年は違った。今年は私が音響を担当した。夜中までパソコンで編集し、完成したと思えばまたやり直しの連続で、頭がおかしくなりそうだった。「こんなに頑張ったところで、自分の代わりなんていくらでもいる」「今作っているCDが明日にはゴミになっているかもしれない」と思うと、文化祭なんていらなかったこともあった。

本番が近くなるほど、みんなの練習に熱が入り始め、絶対に失敗してはいけないというプレッシャーが日に日に大きくなった。裏方は失敗すると迷惑をかけるが、成功しても喜んでくれないと思う。それでも、私は裏方でよかった。表舞台に立ったわけでも、クラスを引っ張ったわけでもないが、結果が出たことで、クラスの役に立つことができたと思うことができた。アカデミー賞受賞に喜ぶクラスメイトの中には、泣いている人もいた。それを見て、責任と不安を感じていたのは自分だけではないと分かり、安心した。

社会人になれば、一層責任と不安に悩むのかもしれない。文化祭が終わるまではそう思うたびに悲しくなった。しかし今なら、「誰もが責任や不安を感じているんだ」と思うことができる。社会に出て、安心して過ごすことができそうだ。

文化祭から学んだこと

205 大畠 優斗 (名古屋市立猪子石中学校出身)

今年の文化祭は自分にとって大きな意味のあるものになった。なぜなら、今回の文化祭で初めて、文化祭準備に責任を持つと思ったからだ。それは1年生の頃の自分からすれば考えられないほどだった。

205はクラスでアンケートをとった結果、テーマが駄菓子に決まった。文化祭準備が始まって、周りに居残る人が何人かいた。それを見て自分も手伝った方がいいなと思い、授業後の時間を文化祭準備に当てた。最初は外装に使う格子作りの手伝いをしていたが、自分がそれを担当することになり、実際に駄菓子屋に行き、内装の参考にしたり、お菓子を箱買いして、その箱を利用したレイアウトを考えたりした。お菓子を使ったオブジェを作るために企業にも挨拶に行った。そうやって文化祭に積極的に関わっていくうちに、作業が楽しくなってきた。文化祭準備を手伝っている自分に、誰かの役にたっているかもしれないと感じている自分がいることに充実感を持っていたからだ。誰かに指示をされたから、周りがやっているからではなく、久しぶりに自分からやりたいと思ったことだった。

流されて生活していた自分にとって、高校で初めて決めた自分の意思だった。去年の自分は残らなければならない時間はやるが、時間が終われば周りと同じように自分も部活に行っていた。今年は他の子が部活に行くのをみても後悔はなかった。文化祭の準備が純粋に楽しく、自分にとって、充実したものだったからだ。

この文化祭は、自分に大切なことを気づかせてくれた。自分がやりたいと思ったことは全力でやる。そこから学ぶことができたこともたくさんあった。あまり喋れなかった人と喋れるようになった。自分にとってこれはすごくうれしかった。今年の文化祭は一度自分を考え直すいい機会になったし、他の子にとっても新たな発見がある文化祭であってほしいと思う。



不安をこえて

102 松田 来夏 (名古屋市立供米田中学校出身)

私たち102組は歴史を恐竜と関連させ、JURASSIC PARKとして文化祭の企画を進め、アカデミー賞をとることができました。

私たちのクラスは、はじめからJURASSIC PARKで企画を決めていたわけではありません。予定していた企画を予算や天候状態などの都合で変えなければならなくなった時、呼びかけて集まったのは10人にも満たない人数でした。こんな状態で本当にうまくいくのか、少ない人数で勝手に決めてみんな協力してついてきてくれるのか。不安だらけのスタートでした。

「準備するから来てください」と呼び掛けて残るのは数人の子ばかりでした。初めて買い出しに行った日、初めての文化祭で分からないことだらけだった私たちは、お店の人に自分たちのイメージをうまく伝えられず先生に軽く怒られるなど、辛かったことだけはしっかりと覚えています。気温が40度近い中、何十回とお店に通っても、なかなか人が集まらないため進まない準備。少ない人数で頑張っているのに、努力が形にならない悔しさで毎日辛くて泣く日々を送りました。しかし、その姿をみた数人の男の子が放課後集まり、仕事をしてくれました。今まで毎朝文化祭準備の進み具合を聞かれるのが怖かったけれど、文化祭当日に近づくにつれて完成していくのを見て自信がついていきました。

文化祭当日、うまくいか不安の中でしたが、力仕事の男の子、サポートする女の子、いろんな人たちのおかげで順調に行くことができたのでよかったです。文化祭前よりもクラスの仲も深まり、全員で作り上げることができた文化祭でアカデミー賞が取れて、辛いことだらけだったはずなのに最後にはうれし涙を流していました。102は最高のクラスです。



文化祭実行委員長より

211 鵜飼 梨生 (一宮市立西成中学校出身)

今回の文化祭で感じたことは、今回の文化祭テーマである「歴史」をさまざまな観点から調べることはもちろん、外観にこだわりを持っていたクラスが多かったことです。教室に入る前から世界観に引き込まれてしまい、教室の中に入った人も多かったと思います。

そして、廊下を歩けば飛び交うクラスの宣伝がとても印象的でした。廊下にも教室にもたくさんの笑顔が溢れており、生徒自身が楽しんでいる姿をととても良い光景だと感じました。そして、3年生の演劇・パフォーマンスでは、始まる前の円陣を組む姿や真剣な顔に、チームワークの良さを感じました。引き込まれるような演技や、演出の工夫・こだわりも見ていて楽しいものばかりでした。全体的に「学ぶ」ことのできるとてもよい文化祭をみんなで作ることができたと思います。

今回、文化祭実行委員長として関わらせていただき、感謝の言葉が飛び交い、仲間を意識できているように感じ、またそんな文化祭に関わらせて頂いたことにとても感謝しています。

PTAバザー報告

大型台風の影響が心配される中、9月22日(土)一般公開日にPTA四委員会、学園父母懇、同朋友の会(卒業生の保護者の会)同窓会によるバザーを無事に実施することができました。

事業委員会は焼きそば・文化委員会には喫茶コーナー・地域懇委員会からは唐揚げを提供していただきました。バザー当日はあいにく1日中雨でしたが、おいしい匂いにつられて本校生徒や多くの来場者で賑わい、早い時間に完売したものもありました。唐揚げは好評につき今年は量を増やしたほです。

物品バザーを行った生活委員会では、昨今のインターネットフリーマーケットの影響なのか、品物の集まりが思わしくありませんでした。しかし何度も物品提供の協力をお願いをする中で品物が集まり、当日を迎えることができました。物品をご提供いただいた保護者の皆様には感謝申し上げます。

収益については「いいものを安く」と仕入れを工夫されたこともあり、今年度は四委員会合計で17万8千422円となりました。この収益金につきましては、今年も生徒の学校生活に必要な備品購入等に使用させていただく予定です。その用途が決まり次第、保護者の皆様にお知らせいたします。

そして文化祭バザーの後、本校の食堂にて90名ほどの保護者と教員で「バザーお疲れ様会」が開催されました。各委員会、各団体からはバザーの売り上げが報告され、教員・保護者からは各学年の文化祭にまつわるエピソードが話され、笑いのあふれる楽しい会となりました。

皆様のおかげで今年も盛況のうちに文化祭バザーを終了することができました。PTAの役員、常任委員の皆様にはバザーの準備から当日の運営、後片付けまでご協力いただき、本当にありがとうございました。

総務部長 杉浦 智晴



活躍している

部活動

この夏、多くの部活動が全国大会へ出場するなど、活躍しました。

柔道部



さらなる上を目指して

306 伊藤 羅奈 (小牧市立小牧中学校出身)

私は全国大会出場を目標として3年間柔道を続けてきました。そしてこの3年間、畑違いに感じられるような「人の役に立つ事」「周囲から感謝される事」を心がけてきました。これは、「自身も人から支えられる事が増え、それらは精神的な強さへと繋がる」と顧問の藤山先生・平岩先生から教えていただいたことがきっかけです。私はこの言葉を信じ、毎日人が見ていない所でも学校周辺や敷地内のゴミを拾い、人が嫌がる事でも進んで行動してきました。

インターハイでは初戦で負けてしまい結果を残す事ができませんでしたが、この舞台に立てた事は誇りであり、とても幸せな事でした。これも今までやり続けてきた事が報われた結果だと感じています。そして、これまで支えて下さった顧問の先生・仲間・家族・周囲の皆さんに感謝の気持ちで一杯です。

これからもこの教えを忘れず精進し、大学でもこれまで以上の結果を残せるよう頑張っていきます。

乗馬部



敗北を成長に

304 舟橋 汰一 (東海市立上野中学校出身)

私たち乗馬部は7月末に静岡県御殿場市で行われた、全日本高等学校馬術競技大会(インターハイ)に出場しました。

昨年は選手になれずに悔しい思いをしたので、1年間、部長として練習を見直し、3年間の集大成を発揮できるようにインターハイに挑みました。

4年連続出場ということで、部員、監督ともに例年よりも気合いを高め、個人競技でありながら団体戦というプレッシャーが掛かる中での走行となりました。結果は初戦で敗退してしまいました。悔しさと自分の不甲斐なさに、思わず泣けてきてしまいました。

その後のミーティングで部長、副部長の引継ぎを行いました。私は1年生の時から副部長を任せられ、部長として引退します。そんな部活生活の中で今の自分があるのは、コーチや監督だけでなく、今までかかわってきた部員みんなのおかげです。そんな意思を伝え残し、今後の練習の見直しや後輩たちへの鼓舞など、敗北を成長につなげるミーティングになったと思います。

今回の試合で、後輩たちが学び、考え、さらなる高みを目指してくれることを信じています。



ラグビー部



第60回中部電力市民スポーツ祭 ラグビーフットボール競技優勝

204 大橋 昇真 (名古屋市立南陽中学校出身)

私たちラグビー部は、5年ぶりに中部電力市民スポーツ祭で優勝しました。この大会は、1・2年生が主体となって挑戦します。昨年は私たちが足を引っ張ってしまい、決勝戦は接戦の末、準優勝となってしまいました。先輩に対する申し訳ない気持ちと、練習不足だったという情けなさがあり、来年こそは優勝すると決意しました。それからは、毎日のように厳しい練習に取り組みました。

チームの主将を任せられた私は、不安や戸惑いもありました。しかし、先輩やチームメイトの支えのおかげで、そうした不安もなくなり、自分なりに上手にチームをまとめることができたと思います。

私たちが優勝することができたのは、自分たちの努力だけではありません。監督やコーチの指導、保護者の皆さんの支えのおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。応援、よろしくお願いします。



Club&Award News

■柔道部

第65回東海高等学校総合体育大会 柔道競技
女子63kg級 優勝 柿原 宮七 (304)
女子48kg級 第3位 伊藤 羅奈 (306)

全日本ジュニア体重別柔道選手権 愛知県予選
女子63kg級 第2位 柿原 宮七 (304)
女子78kg超級 第3位 宿院 麻帆 (310)
男子60kg級 第3位 長谷 晃希 (303)

■男子サッカー部

平成30年度名古屋南支部サッカー大会 優勝

■男子バスケットボール部

平成30年度愛知県私学祭体育大会
バスケットボールS2男子の部 準優勝

■女子バスケットボール部

平成30年度愛知県私学祭体育大会
バスケットボールS1女子の部 第8位
第60回中部電力市民スポーツ祭 高校生の部 第3位

■ラグビーフットボール部

第60回中部電力市民スポーツ祭 優勝
飛騨市長杯争奪ラグビーフットボール大会 第2位

■女子蹴球部

第72回愛知県高校総合体育大会 第3位

■乗馬部

第52回全日本高等学校馬術競技大会(インターハイ)東海地区予選 第3位

第9回 Jumping Horse Show T in Aichi

第1競技 障害100	優勝	石井 亜海 (201)
第6競技 障害70	優勝	舟橋 汰一 (304)
	第2位	吉岡 陽 (301)
	第6位	加藤 颯馬 (201)
第7競技 障害60	第2位	黒田 英巨 (201)
第8競技 障害80	第6位	加藤 颯馬 (201)
第9競技 障害100	優勝	吉岡 陽 (301)

■演劇部

第71回中部日本高等学校演劇 名古屋第4地区大会 優秀賞 県大会出場

愛知県職業教育技術顕彰を受領しました

愛知県は職業資格の取得を通し、技術・技能の習熟、目的意識をもって充実した学校生活を送り、将来にわたり豊かな職業生活を営むことを目的とした技術認定制度があります。

本校からも日頃の学びの成果が実り、商業科3年生を中心に57名の生徒に対し、愛知県知事から「職業教育技術顕彰」が授与されました。

顕彰が授与されたことに自信を持ち、これからも学びに対し真摯に取り組んでもらいたいです。 商業科主任 伊吹 酬平



愛知県職業教育技術顕彰受領者

犬飼 翼	鈴木 彩花	馬場 雄基	久田 愛美
佐々木 駿介	坪井 綾音	板倉 史佳	山崎 琴乃
山田 陽太	中西 夢	猪野 菜摘	脇田 まりあ
池田 栞理	横山 瑞穂	鮫島 由羽	加藤 健
大脇 萌	大野 輝哉	鈴木 未唯	石黒 彩希
木村 朱里	松田 充弘	豊島 梨々花	糸井 真央
島田 歩美	青木 玲奈	服部 美咲	鶴飼 美月
西村 祐香	伊藤 里菜	吉川 美紀	眞谷 優希
松浦 永里香	神本 桃花	神田 知輝	玉村 綾那
山田 乃愛	木村 芽衣	水谷 友哉	中垣 はる花
井上 歩	宿院 麻帆	浅井 茉優	宮本 未夕
西垣 皓平	原 瑞稀	稲葉 琴音	渡邊 由佳
松田 菜々子	矢石 みく	河野 沙映	
伊藤 麻衣	吉川 知花	澤田 千紗	
飼沼 京子	加藤 圭亮	高橋 莉子	

以上57名

デザイン特別講義 名古屋造形大学

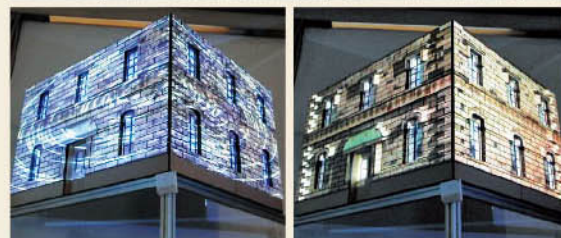
商業科では、2年時から自分の得意分野の能力を伸ばすため、会計・情報・ビジネス・デザインの4系列に分かれた課題研究(選択授業)を行っています。

7月30日に、デザイン系列の選択授業で学ぶ2・3年生の生徒が姉妹校である名古屋造形大学でデザイン特別授業を受講してきました。

名古屋造形大学メディアデザインコースの先生や学生たちに実際に指導していただきながら、プロジェクションマッピングの作成に挑戦しました。高校の授業では扱っていないソフトウェアの扱い方の説明と制作作業の合計約3時間で、各自1分程度の作品を作り上げ、博物館明治村の札幌電話交換局の模型に光を投影すると、立体的な作品が生まれました。

コンピュータの画面上では平坦だった映像を実際に立体物に投影することで、想像以上のできばえに生徒たちは興奮していました。また、造形大学の敷地を散策し、実際に目にした造形大生の制作物に感動していました。

商業科教諭 本田 裕規



アンサンブル演奏会

最初で最後のアンサンブル演奏会

312 三久保 麻弥 (名古屋市立守山北中学校出身)

音楽科2・3年生が出演できるアンサンブル演奏会。昨年私は出演できなかったのですが、今年が最初で最後の出演でした。

メンバーは管楽器8人。普段の授業では、指揮者がいない状態でアンサンブルする機会はないので、初めはリズムも吹き方もバラバラでした。舞曲的なきれいな曲も重くて暗い音しか出せず、これなら出演しない方が良くも思えないと思った時もありました。しかし、大学の先生が時間を作ってくださり指導していただく中で、みんなの音がまとまり、私もアンサンブルが楽しくなってきました。今まで楽器をやってきた中でこんなに音楽が合ったのは初めてで、これぞアンサンブルだ!と思う瞬間がいくつもありました。

今回この演奏会に出演させていただくことで、高校生活最後の年に「アンサンブルとは何か」を学ぶことができ、とても貴重な経験をする事となりました。一緒に演奏してくれた管楽器のメンバーにも、ありがとうございました。この経験を生かして、今後の演奏会も頑張ります。



合唱・オーケストラ演奏会を終えて

312 岡島 夕奈 (名古屋市立富士中学校出身)

高校生最後の合唱・オーケストラ演奏会は楽しくもあり、辛さを感じた演奏会だった。

私は、今回の演奏会で4曲の伴奏を務めた。音取り、音入れ、リズムの耳コピを夏休み前から始めたが、本番ギリギリまで修正が入り本番までに納得のいく演奏ができるのかとても不安だった。私たち電子オルガン生は、夏休み明けの実技テストの練習時間や、睡眠時間を削ってリズムを入れたり、楽譜に無い所を耳コピするなどした。今回のミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」は変拍子が多く、本当に頭を使う曲だった。大変で途中で投げ出したい

気持ちになったこともあったが、とても勉強になったのも確かだ。特にプロローグの口笛の音作りは大変だった。人の口から出ているあの音を、機械である電子オルガンでどう近い音を出そうか悩んだ。

そして迎えた本番の日。あれだけ不安だった伴奏も踊りも上手いき、すぐに本番は終わってしまった。ずっと緊張していたため演奏後は緊張がほぐれて涙が出て、電子オルガンの生徒みんなで泣いた。本当に大変で、辛くて、楽しい演奏会だった。残りの高校生活も18人で支え合っていきたいと思う。



オーストラリア ホームステイ

今年度の日程は例年より1週間早い7月27日からの18日間、17名の生徒と引率教員2名で、本校の姉妹校であるオーストラリア・サンシャインコーストのUnity Collegeで語学研修とホームステイプログラムに参加しました。

現地ではネイティブの先生による英語レッスンはもちろん、日本語を勉強しているオーストラリアの高校生たちと交流する時間もたくさんあり、両国の生徒たちの笑顔があふれる楽しい時間でした。

最初は慣れない環境の中、言葉が思うように通じない、何を言われているのかまったく理解できないなど、ネガティブなことばかり口に出



する生徒たち。しかし、日に日にアツという間に適応していく彼らの姿に感動しました。

今回の経験を単なる楽しい思い出にせず、今後の英語学習のモチベーションとして活かしてくれることを願っています。

国際交流委員会 尾崎 陽一



最高の2週間

102 山上 佳純 (名古屋市立山田東中学校出身)

ホームステイを申し込む時、英検やTOEICを持っておらず、英語のテストの点数も良くない私が、ホームステイをしても大丈夫なのかと不安がありました。準備を進めていく中でも、周りの友達との差を感じていました。しかし、初めて海外に行けるという、ワクワクでいっぱいでもありました。まず空港でさっそく英語を使うことに驚きました。客室乗務員に飲み物や食べ物頼む時や、空港内のショップ店員と話すときに、話すスピードが早く聞き取れなかったり、自分の発音が違うのか上手く伝わらなかった時に、2週間本当にやっていけるのかと不安になってしまいました。

ブリスベン空港に到着し、荷物を受け取ってバスに乗り、これから通うことになるUnity Collegeへ向かいました。学校に着いたら職員室へ行き、先生たちと挨拶をした後、ホストファミリーを待ちました。迎えに来てくれたのはホストマザーのJulieとパディのAnnaです。車の中でたくさん質問されたり、いろいろと教えてくれましたが半分以上聞き取れなくて、上手く会話が弾みませんでした。家に着いた後、軽クルームツアーをしてもらい、ペットの

名前を覚えてもらいました。私は会話の話題を作らなかったので、日本から持参したお土産を渡すと、とても喜んでくれました。私のホストファミリーはビーチや川、花鳥園のような所に連れて行ってくれ、なかなか行けない大学のオープンキャンパスにも連れて行ってくれました。家ではUNOやボードゲームもしました。ご飯も美味しくたくさん食べてしまいました。

この2週間で、ホストファミリーと会話したことや、Unityの日本語の授業で、私の母国である日本の遊びを教えるときにうまく伝えることができず、いかに日本のことを知らないかに気づかされました。英語で話すことに苦手意識がありましたが、自分の英語が通じ、会話ができるようになると、もっと英語でしゃべりたい、学びたいと思えるようになりました。この2週間で自分の考え方が驚くほど変わりました。

こんな自分に会わせてくれたオーストラリア、そしてすべてに感謝しています。



地域懇談会が終わり

初夏のころ、23地域で地域懇談会を実施しました。今回も、卒業生によるマジックショーやお料理教室、先生によるプチ授業などの企画を交えて、同朋高校ならではの温かく、心のこもった懇談会になりました。あわせて、先生方と地域の保護者が分け隔てのない意見交換をすることができ、中身の濃いコミュニケーションができました。

このような活動は、地域懇談会に関わるすべての方々のご協力の下に成り立っており、結果として生徒、保護者、学校のより良い関係に繋がる大変有意義な活動だと思います。

今後の活動として、12月8日のオープンフォーラムを予定しております。まだまだ参加いただけるので、お子さんから水色の手紙を受け取ったらぜひとも参加をお願いしたいです。

みなさまとともに力をあわせて、同朋高校を盛り上げていきたいと思っています。

PTA地域懇委員長 谷崎 みさ子

PTA研修旅行 今年は京都で研修しました

8月26日に、60名の参加者を乗せて、京都へ研修旅行に出かけました。バス内ではクイズ形式で京都の歴史や文化を学び、最初の目的地である貴船へ。毎日のように最高気温が記録を更新したとニュースが流れましたが、貴船エリアは、青々とした木々の中を吹く風や、貴船川のせせらぎのおかげか、名古屋よりも10度ほど気温が低く、貴船川にかけられた川床へ降りると、その流れに足を入れることができ、またおいしい会席料理をいただくなど、日ごろの喧騒を忘れるかのような、ゆったりとした時間を過ごしました。大原三千院では、国宝に指定された仏様や苔生す日本庭園にたずんだ「わらべ地蔵」に出会うなど、落ち着いた京都を堪能しました。清水寺参道の散策は、時間の都合上あわただしくなっていました。しかし、参加されたみなさまからは非常に高い満足度をいただく研修を行うことができました。企画・準備・運営を担当したPTA文化委員会を代表して、紙面を持ちまして御礼申し上げます。文化委員会は、すでに来年度の研修旅行に向け計画を進めています。1・2年生の保護者の方は、ぜひ来年度の研修旅行の参加を検討いただければ幸いです。

PTA文化委員長 松田 えり



同窓会総会を開催しました

名鉄ニューグランドホテルを会場に、58回目を迎える同窓会総会を開催しました。毎年多くの方に参加していただき、今回も200名を超える同窓生とお世話になった先生方にお集まりいただいたの盛大な総会となりました。

会計報告などの議事に続き、おいしい食事を交えたパーティーは、世代を超えた同窓生の笑いが絶えない時間となりました。

同窓会は、毎年8月第1日曜日に同窓会総会を実施しています。来年の総会は、8月4日(日)に実施予定です。3年生のみなさん、来年の同窓会総会で会合いできることを楽しみにお待ちしております。

同窓会幹事一同

